

ミステリ読書案内

2024. 1. 23 発行元

第546号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

ロス・マクドナルド「ベスト表」(再掲)

「正統派ハードボイルド」の流れで言うと、ダシール・ハメット、レイモンド・チャンドラー、ロス・マクドナルドと続いていく。一番作品数の多いロス・マクドナルドの『ベスト表』を再度取り上げてみることにする。

ロス・マクドナルドないの思い

「ハードボイルドの流れを受け継ぐ」という点で悩んだのがロス・マクドナルドだったと思う。今回下に取り上げた『動く標的』『象牙色の嘲笑』などの初期の作品群を見ると特にそう感じる。ハードボイルドの手法と形式を引き継ぎながらも自分の独自さを作り出すための通過点。ミステリの歴史を研究するため

には欠かすことのできない作家。

以前の『代表作』では『ウィッチャリー家の女』『さむけ』『トラブルはわが影法師』の三冊を取り上げて紹介している。今の若い人たちにお薦めする作品としては少々重い印象かもしれないが、是非読んで見るとよいのではないだろうか。図書館にも何冊かは置いてあるし、ハヤカワミステリ文庫版も比較的手に入りやすいと思う。

《ロス・マクドナルドのベスト表》

1. ウィッチャリー家の女 ⑨
2. さむけ ⑪
3. 縞模様の霊柩車 ⑩
4. 一瞬の敵 ⑭
5. 象牙色の嘲笑 ④
6. ギャルトン事件 ⑧
7. 運命 ⑦
8. ドルの向こう側 ⑫
9. 別れの顔 ⑮
10. ブルー・ハンマー ⑱
11. ロス・マクドナルド傑作集(短)
12. 地中の男 ⑯
13. 人の死に行く道 ③
14. ブラック・マネー ⑬
15. ファーガスン事件
16. 犠牲者は誰だ ⑤
17. 死体置き場で会おう
18. 兇悪の浜 ⑥
19. 動く標的 ①
20. トラブルはわが影法師
21. 青いジャングル
22. 魔のプール ②

丸数字は、アーチャーものの発行順を示す。長編は全部で25冊のはずなので、私の未読は4冊。『眠れる美女』⑪とか『暗いトンネル』などだと思う。短編もある程度書かれているのだが、私が読んでいるのは創元推理文庫の『ロス・マクドナルド傑作集』のみ。これ以外の短編集では『我が名はアーチャー』が出ているくらい。HMMなどの雑誌に掲載されたものも何冊かはあると思う。

「動く標的」

1949年の作。長編第5作に当たる。探偵リュウ・アーチャーが初めて登場した作品となる。私は創元推理文庫版で読んだのだが、ロス・マク作品の中で一番最初に手に取った本で、印象は良くなかった。とてもチャンドラーの後継者のように思えなかったのだ。その後、ロス・マク作品を読みこなしていく中で、考え直して少し評価を上げたけれども、「正統派ハードボイルド」としてはまだまだ途中段階のものと理解している。世間的には映画作品の方が有名だと思う。ポール・ニューマンが主演である。『魔のプール』が原作となった『新・動く標的』という映画も作られている。

冒頭、アーチャーは石油業界の大物であるラルフ・ Sampson の屋敷を訪ねる。対応に出てきたのは妻のエレイン。彼女の話では、夫の Sampson がロサンゼルス空港から消えたとのこと。お抱えのパイロット目の前で自ら姿を隠したようなのだ…。その後、「10万ドルを用意するように」と書かれた自筆の書状が届いた…。エレインは後妻であり、先妻との間の娘ミランダが登場して連続殺人事件に発展していく。

「象牙色の嘲笑」

1952年の作。長編8作目に当たる。初期の作品群の中では本書が代表作だと思う。チャンドラーの『長いお別れ』が1953年の出版なので、その一年前の作品となる。その意味では同時代の中で成長していったことがわかる。本書出だしの、事務所を訪ねてきた依頼人ユーナ・ラーキンとアーチャーとの会話を読むと、ロス・マクがチャンドラー作品をかなり意識して書いているのが感じられる。なかなか本筋に入らない依頼人の話とそれを巧みに受け流すアーチャー。中身の無い会話なのだがウィットを感じさせ、人物像を作り上げていく。内面を語らないハードボイルドの手法…。

依頼人は自宅で雇っていた若いメイドのルーシー・チャンピオンがいなくなったので行方を探してほしいと語る。この依頼人がなかなか曲者で正体がよくわからないのだが、とりあえずアーチャーは調査に取り掛かる。そしてメイドを見つけるのだが、すぐにホテルで喉を切り裂かれた死体となってしまふ。その傍には新聞の切り抜きが残されていて、地元の富豪の息子チャールズ・シングルTONの失踪事件が掲載されていた。ここまではハードボイルドのお決まりのパターンで進む。この後の展開にロス・マクらしさが出てくることになる。中期の傑作『ウィッチャリー家の女』などにつながる要素が少しずつ見え隠れするようになっている。